



俳人。松山城下の湊町(現松山市)出身。本名清。正岡子規に影響を受けて河東碧梧桐とともに文学、俳句に関心を持ち俳句革新運動に参加する。小説に熱中して、俳句から遠ざかったが初志に帰り、俳壇に復帰した。碧梧桐の新傾向に対して自ら守旧派と称し、子規の客観写生を広げて17字の定型と季題を守った花鳥諷詠を説き、俳壇の主流となった。主宰する『ホトギス』は、大正・昭和期には、全国一を誇る俳誌となり、多くの俊秀を輩出し、ホトギス王国を築いた。現在、兵庫県芦屋市の虚子記念文学館と長野県小諸市の高濱虚子記念館で資料展示がされている。

略歴

- 明治7(1874)年2月22日 松山城下の湊町に旧松山藩士池内信夫の四男として生まれる。
- 明治15(1882)年 祖母の家を継いで高浜姓を名乗る。
- 明治21(1888)年 伊予尋常中学校(現松山東高等学校)に入学。
- 明治24(1891)年 河東碧梧桐らと「松山俳句会」を開く。正岡子規から「虚子」の号を受け、子規に兄事。
- 明治26(1893)年 京都の第三高等中学校に入学し、河東碧梧桐と一緒に下宿。
- 明治27(1894)年 仙台の第二高等中学校に転学するが、退学して子規を頼り上京。
- 明治31(1898)年 俳誌『ほととぎす』を東京に移し、編集に従事。
- 明治38(1905)年 夏目漱石に勧めて書かせた「吾輩は猫である」や「坊っちゃん」を『ホトギス』に掲載するなど小説に熱中し、俳句から遠ざかる。
- 明治43(1910)年 新聞社を退社して『ホトギス』の編集に専念する。
- 大正2(1913)年 俳壇に復帰。「春風や鬪志いだきて丘に立つ」の句を詠み新傾向俳句に立ち向かう覚悟を示す。
- 昭和22(1947)年 石田波郷らと現代俳句協会を結成。
- 昭和23(1948)年 愛媛新聞「愛媛俳壇」の選者となる。
- 昭和26(1951)年 『ホトギス』の雑詠選を長男の年尾に譲る。
- 昭和34(1959)年4月8日 85歳で永眠。

- 『日本人の自伝(田山花袋、高浜虚子、金子光晴) 17』 平凡社 1981年
- 『現代俳句の世界』 朝日新聞社 1984年
- 『現代日本文学大系(高浜虚子・河東碧梧桐集高浜虚子)』 筑摩書房 1985年
- 愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- 愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第19巻 高浜虚子・河東碧梧桐・種田山頭火』 愛媛県教育会 1989年
- 池内友次郎『父・高浜虚子』 永田書房 1989年
- 山口誓子『高浜虚子研究』 右文書院 1991年
- 大野林火『高浜虚子』 日本図書センター 1993年
- 恩田甲『入門高浜虚子』 おうふう 1995年
- 愛媛新聞社出版局出版部『郷土俳人シリーズ3 高浜虚子』 愛媛新聞社 1997年
- 中岡毅雄『高浜虚子論』 角川書店 1997年

(写真提供:虚子記念文学館)

愛媛県生涯学習センター:TEL 089-963-2111(内線212)
掲載情報の無断転載を禁じます。